



西東京市立保谷中学校
学 校 便 り 3 号
令和8年6月30日(火)

校長

皆さんは、普段の会話の中で「ヤバイ」という言葉を使うことがあると思います。「今日のテスト、ヤバかった」「あのシュート、ヤバイ」「あの人の努力、ヤバすぎる」。友だちとの会話では、とても使いやすい言葉です。短い一言で、驚き、凄さ、焦り、感動、面白さ、悔しさ等、いろいろな気持ちを伝えることができます。

「ヤバイ」という言葉は、元々「危ない」「不都合」という意味で使われていました。1990年代以降は、「常識を超えていて凄い」「感情の容量を超えている」など、ポジティブな意味でも使われるようになりました。

「ヤバイ」は、とても便利な言葉です。しかし、便利すぎる言葉は、時々、自分の本当の気持ちを隠してしまいます。本当は感動していたのに、「ヤバイ」で終わる。本当は感謝しているのに、「ヤバイ」で終わる。本当は悔しかったのに、「まあヤバかった」で流してしまう。それでは、少しもったいないと思います。短い言葉で終わらせず、そこに自分の言葉を少し付け足すことで、自分の心に気づき、相手にもその思いを届けることができます。

例えば、ただ「すごい」と言うよりも、「最後まであきらめなかったところがすごい」と伝えた方が、相手はうれしいはずです。ただ「よかった」と言うよりも、「聞いている人の方を見て話していたから、気持ちが伝わってきた」と伝えた方が、相手の心に残るはずです。

ただ「ヤバかった」と言うよりも、「最初は不安だったけれど、みんなで声をかけ合ったから最後まで頑張れた」と言えた方が、自分自身の成長にも気付けるはずです。

言葉は、人を傷つけることもあります。でも同じように、人を励ますこともできます。自分を支えることもできます。誰かの努力に光を当てることもできます。今、皆さんは、毎日たくさんの感情と出会っています。上手く行って嬉しい日。思うようにできなくて悔しい日。友だちの一言に救われる日。その一つ一つを、できるだけ自分の言葉で表してみてください。「楽しかった」だけで終わらせずに、「みんなで協力して一つのものを作れたことが楽しかった」と伝える。このように、少しでも言葉を足してみる。それだけで、同じ出来事の見え方も、相手への伝わり方も変わります。

短い一言で気持ちが通じることもあります。でも、その一言の先に、もう少しだけ自分の言葉を付け加えてみてはどうでしょうか。「何が心に残ったのか」「どのように感じたのか」「なぜそう思ったのか」を言葉にできる人は、自分の心を大切にできる人です。そして、相手の心も大切にできる人だと思います。

自分だけの言葉を少し添えて相手に伝える。その力は、これからの学校生活だけでなく、将来、誰かと関わり、何かを伝え、自分らしく生きていくための大切な力になります。

皆さんの中には、まだ言葉になっていない思いがたくさんあります。その思いを、少しずつ、自分の言葉にして、周りの人に届けていきましょう。

運動会（担当:体育的行事）

5月30日（土）第76回運動会が行われました。今年度のスローガンは【頂点奪取～バトンは渡すが優勝は渡さない～】でした。1年生が5クラスのため、2年ぶりのしそ団（DE組連合軍）復活でした。クラス、学年をこえて応援しあう姿は何度見てもうれしい気持ちになります。入学、進級後に行う初めての行事、生徒が主体となって盛り上げることができました。



黄団入場！

開会式



選手宣誓、立派でした。



スターターは生徒会役員がやってくれました。



二人三脚、息ぴったり！



大縄、たくさん跳んでいます。



障害物走はハードルに両足ジャンプで大忙しです。



台風の目は1年生7チーム、2, 3年生は8チームで棒をつないでいきます。



3年生の棒引き、白熱です。

多摩特研バスケットボール大会（担当:のびる学級）

6月19日（金）に、のびる学級では「多摩地区特別支援教育研究会・球技大会」に参加してきました。

例年、バスケットボール大会を実施しています。生徒の実態に応じてA・B・Cリーグがあります。今年度はAリーグとBリーグで優勝することができました。大会当日に向けて、教員も生徒も真剣に練習に取り組もみました。柳沢中学校とも交流活動の一環で練習試合を企画実施し、行事を通じて「相手のために自分の力を発揮する」資質が向上しました。



1 学年いじめ防止教室（担当:1 学年）

6月19日（金）6時間目に弁護士の先生を招き、「いじめ防止に関する法教育」を実施しました。弁護士の先生からは「いじめはどうして起きるのか」「いじめは人権侵害である」「いじめを止めるには」など専門家の観点からお話をいただきました。過去に実際にいじめが原因で亡くなった方のお話があり、一年生は真剣なまなざしでお話に耳を傾けていました。弁護士の先生からも「みなさん、真剣に話を聞いてくれてとても話しやすかったです。」と聞く態度を褒めていただきました。最後の質問では弁護士というお仕事についても聞くことができ、普段なかなか聞くことができないことを聞けてとても有意義な時間となりました。この経験を今後の学校生活に生かし、学年全体でいじめを許さない、おもいやりのある学年を創りましょう。

以下は授業のアンケートから抜粋したコメントです。

「自分の発言で相手の心のコップに水をそそいでしまったかもしれないと思いました」

「学年目標である考動が大切と思いました」

「相手を傷つける権利は誰にもないことをちゃんと覚えようと思いました」